

# 配合飼料生産の現場より～良いエサを お届けするために～苫小牧工場の紹介

## 種苗会社に飼料工場の誕生

弊社飼料工場は、昭和27年江別の種子工場を改修し、初の乳牛用配合飼料専門工場を操業、以来全国各所に飼料工場を建設してきました。道内においては、酪農家及び畜産農家の力強い支援に支えられ、年々生産量が増加していくなか、道東地区の釧路・別海に飼料工場を建設しました(現在は道東飼料株式会社として)。一方で時代の物流変化(大量生産、大量輸送)による効率化が求められたため、江別飼料工場は昭和61年に苫小牧市へ移転し、道央地区における基幹工場(苫小牧工場)としてリニューアルをしました。



苫小牧工場

## 苫小牧飼料工場

苫小牧工場は、道内屈指の流通拠点港湾である苫小牧港に隣接し、食品・飼料団地として造成された公共埠頭の一角に敷地33,690㎡を擁しています。苫小牧港は、原料の調達と製品の出荷に最適な条件の立地(整備された交通網)であり、また生産する上でのエネルギー・用水の確保、あるいは公害防止等においても環境が整えられております。

工場建屋は、鉄骨地上7階建て6,215㎡(内3,600㎡が製品倉庫)で、定時月産能力6,000トンにより二交代制で配合飼料の生産をしております。

主な出荷エリアとしては、道内を日高山脈で

概ね2分割した西側、北は稚内、豊富から南は八雲、函館となります。

## 製造加工

配合飼料の原料搬入は、主原料である穀物のトウモロコシを中心に、アメリカをはじめ世界各地より輸入され苫小牧港に荷揚げされ、埠頭のサイロ会社からコンベアで工場のサイロに搬送し保管します。また大豆油粕、ふすまなどの副原料やカルシウムなどミネラル原料は、大型車両で搬入します。



中央操作室

工場では、これら80種類もの原料を用途別に、粉碎加工、加熱圧パン加工、ペレット加工し、銘柄ごとに指定された配合割合に応じて原料を計量混合し液体原料である糖蜜を添加し製品とします。現在100銘柄程の乳牛用・肉牛用の配合飼料を製造しています。製造マンは、様々な制約条件を考慮して原材料を予定時間に加工搬送し、数ある混合配合の待ち時間やロスを出さないなど、絶えず効率的な生産管理をどのように実践するかという事が腕の見せ所であり、場員の衆智と結束力によりベストを目指しています。

弊社は、独自の適正製造基準(GMP)で飼料工場における製造・品質管理基準を定めて運用しており、品質マネジメントも(国際規格)ISO 9001:2008を取得し、認証が継続されております。



工場検査・点検

工場現場では、必ず、最初の点検確認は機械でも品質でも、人間のもつ五感でチェックを行います。品質面では、外観の変化はもちろん、色やにおいなどで、いつもと変わらない「安定した品質を保つ」ことが基本であり大切であると考えております。

### 品質管理

配合飼料では、農林水産省が監督する通称「飼料安全法」という製品の品質と安全性の確保を目的とした法律があります。弊社はコンプライアンス(法令遵守)の徹底を行動基準にも掲げており、事務所棟の分析室では、栄養成分分析(蛋白質やカルシウム・リンなど)や管理分析(かび毒・抗菌性物質などの検査)を行い、食品メーカー同様に特殊分析である農薬、重金属、サルモネラ菌混入調査も外部検査機関へ委託することで、製品の品質と安全性の確保をしています。



分析室

### 工場の取組

まずCSR(企業の社会的責任)の一環で、昨年

(平成24年)北海道の要請により冬の節電「計画停電回避緊急調整プログラム」に参加し、また第二種エネルギー管理指定工場として省エネ対策にも取り組んでいます。

また、製造マンは、「自分達の設備は、自分達で守る」とし、これをより具現化する為、昨年より自主保全活動を実践しております。自らが計画した設備点検を実施し、設備修繕していく取組により、ベテラン社員から若手社員へ技術習得が継承され、問題点が発掘されます。社内全体としても5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)が推進され、「より良い環境整備」をしたいと心掛けております。



新製品倉庫と出荷

### 最後に

弊社が配合飼料の製造をはじめてから61年、受け継がれた製造マンとしてのノウハウで、「雪印のエサ」を安全かつ確かな品質を維持し、社会に貢献できる商品開発、生産、供給で信頼にお応えできる様、より一層努めて参ります。



工場スタッフ

(苫小牧工場 根津)